への貢献については，今さら云うまでもありません。学内での活躍の状況はお聞き及びと思いますが，学外での千歳先生のお仕事を会員の皆様は余りご存じないかも知れません。しかし，地理学，及び環境情報学，都市計画学，計画行政学等の関連学会の専門委員会で，60才を越えても千歳先生のように現役として活躍中の方は稀です。この幅広い活躍が学生たちの関心領域を広げたことは，千歳ゼミの学生の卒論テーマからも読み取れます。91年の大学設置基準の大綱化に伴う大学改革の進展の中で，全国の大学地理学教室は対応を迫られましたが，千歳先生はお茶大地理学科の将来のあり方を熱心に検討・熟慮され，私にまで意見を求められたことがありました。

千歳先生は性格が明るく温厚なお人柄で，学生時代から友人に信頼されてきました。お茶大でも学生諸君に人気があったと聞いています。学会誌37号の随筆欄への寄稿「『私のモーツアルト紀行』の空間」からもその一端がうかがわれますが，千歳先生は音楽・美術・文学等幅広い趣味の持主です。特に音楽は，学生時代に元文教育学部長の徳丸先生と共に，東大オーケストラの主要メンバーとしてヴィオラパートで活躍されたように，自らも演奏を楽しまれる本格派です。退官後もまだ仕事から解放されないかも知れませんが，どうか健康に留意され，幸せな人生を送られるよう願っております。千歳先生，どうか何時までもお元気で。

（1999年2月）

千歳先生の思い出

新　井　桂　子

平成3年4月1日，当時地理学教室に助手として勤務していた私は，当日着任予定の千歳先生を助手室でお待ちしていた。そして，10年前，千歳先生と初めてお会いした時のことを思い出していた。

昭和57年の春，学部4年生で卒論を準備していた私は，都市気候をテーマとして，都市内部の土地利用の差異による気温への影響を考察しようとしていた。東京都をフィールドに考えていた私は，卒論の副指導をお願いしていた井内昇先生のご紹介で，当時東京都の都市計画局企画調査課課長でいらした千歳先生をおたずねしたのである。

その時，千歳先生のいらした部署はJR有楽町駅に近い庁舎にあり，教えられてきた部屋に入った時，西からの太陽の光を背にして席についておられた先生の姿が，シルエットのように浮かんでいた光景を印象深く記憶している。そして，私は「23区内の道路の被覆状況を知りたい」というようなことを申し出て，道路課の方を紹介していただいた。

以来お会いする機会もなく10年が経過していたのだが，お顔とお名前は記憶していたので，その方がお茶大に着任されるとうかがい，思いがけない偶然に驚いていたのである。

平成3年に着任された後，しばらくして，先生に卒論でお世話になったことをお話したら，「すっかり貫禄がついたので」覚えていらっしゃらないとのことだった。

それでも私の方はご縁があったのだと勝手に解釈し，助手として勤めていた私にも細かな心遣いをしてくださる先生に，その着任1年目で助手を退職することが決まった後の進路についてもご相談させていただいた。

退職後は博士課程に入学したものの，転居・出産等のため思うように大学に出られなくなり，先生とゆっくりお話する機会もないまま瞬く間に6年が経過した。

そして，先生が今年度いっぱいでご退官とうかがい，お茶大でお会いできるチャンスはもう少ないと思い，昨年夏，先生の研究室をおたずねした。私の研究テーマが，都市をフィールドとした農業に変っていたので，長年，都市計画に携わってこられた先生に都市計画の立場から見た都市農業についてアドバイスをいただきたくもあった。

しかし，その時のお話は，私が予想していなかった方向に進んだ。先生は，ご自分の子供の頃のお話からお母様の子育てのことに触れられ，成長期の子供にとって母親の工夫と愛情に満ち

た態度がどれほど大切かを話して下さった。それは，子供が幼い時期に急いで結果を求めるより，家庭にあって家族とともに時間を過ごすことが最良の選択であるというご意見とうかがった。

初めてお会いした時から15年以上経過したが，先生は当時と変わらず若々しくいらっしゃる。ご退官なさった後も，末永く私達のことを見守っていただきたいと願っている。

千歳先生の思い出

落　合　優　子

「お台場海浜公園行き，まもなく出航です。」

職場の隣にある水上バス乗場（浜松町日の出桟橋）のアナウンスと，楽しそうな観光客の声が今日も耳に響きます。

大学に入学した頃から脚光を浴び始めた臨海副都心。そこで働きたいという私の夢を，千歳先生が叶えて下さったと言っても過言ではありません。

臨海副都心（の一部）の属する港区をフィールドとして卒論を書くにあたりご指導をお願いした日，まだ希望の進路の定まらない私に先生はおっしゃいました。

「あなた，都庁にしなさいよ」

当時，都庁からお茶大にいらしたばかりの先生が，「男女差を感じることなく，大都市東京を舞台に様々な分野の仕事ができる」と勧めて下さったおかげで，私は現在都職員となり，東京港の管理に携わっております。

先生には，中央卸売市場や，当時再開発計画途上だった汐留貨物線跡地，船での東京港見学などの巡検を通して「東京」を多角的に捉える姿勢を教えて頂きました。この貴重な経験を誇りに思い，職務を行う上での糧としていくつもりです。

今でこそダジャレで有名でいらっしゃるようですが，当時まだお役人という印象が強かった先生との1対1のゼミは大変緊張しました。しかし，茗荷谷駅前の居酒屋で偶然隣りの席になった日のこと，真っ赤なお顔をされた先生の口調が非常に滑らかになっているのを見て，普段とのギャップに驚く反面，親近感さえ覚えました。実は，先生は「人とお話しすること」が大変お好きなようで，それは新入生の顔と名前，出身をすぐに覚え，卒業したゼミ生の近況を気にかけて下さることにも表れているように思います。

卒論提出後，ゼミ生全員をご自宅にお招き頂いたこともありました。奥様の手料理に舌鼓を打ち，先生の学生時代から社会人としての心構えに至るまで様々なお話を伺いながら，ふと大学を卒業する寂しさに包まれたのがつい先日のことのように思い出されます。その数日後に行われた卒論発表会では，他の先生方からの厳しい質問に答えきれない私に数々の助け船を出して頂いたおかげで何とかその場が収まり，先輩がおっしゃっていた「よく学生の面倒を見て下さる」先生に最後まで甘える形となってしまいました。

先生にとって記念すべき初代のゼミ生でありながら，不勉強でご迷惑とご心配をかけ通しだった私ですが，都市計画について熱っぽく語られる先生のお姿を胸に刻み，よりよい東京づくりに貢献していくことがささやかな恩返しだと考えております。

最後になりましたが，千歳先生，8年間お疲れさまでした。ますます健康に留意され，今後とも私達卒業生へのご指導の程よろしくお願い致します。